

フロンティアスクール中間報告書

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 新潟県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 柿崎町立柿崎中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 4 | 3 | 4 | 2 | 13 | 25 |
| 生徒数 | 133 | 116 | 137 | (4) | 386 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--------------------------------------|
| 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導方法・指導体制の工夫改善 |
|--------------------------------------|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生数学、英語（生徒の理解度に差が出やすい傾向があり、それに対して早めの対応を行うため。） ○ 2, 3年生数学、英語（生徒の理解度に差が出やすい傾向があるため） |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導方法の工夫、改善</p> <p>仮説 小中学校連携による基礎学力の定着を意図して作成した「パーフェクトマスター」を、単元の前後で診断的に活用しながら指導と評価が結び付いた指導に生かしたり、習熟度別等の少人数指導を行ったりすることによって、生徒一人一人の習熟の程度に応じたきめ細かな指導の一層の充実が図られる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 客観的データを基に生徒の学力実態（学年や学級の傾向と個々の生徒の得手、不得手）を分析する。 ○ 学力実態の分析に基づき授業改善等を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パーフェクトマスターの活用と改善（国語、数学） ・ 小中学校の授業交流を通じた指導方法の工夫・改善（国語、数学） ・ 習熟度別等の少人数指導の実施（数学、英語） ○ 結果を客観的データによって確認する。 |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導方法の工夫、改善</p> <p>仮説 生徒に見通しをもたせるために目標や学習内容の提示を工夫したり、生徒の自己評価能力を高め、授業の評価を充実させるために振り返りカードの活用を図ったりすることで、生徒は意欲的に学習に取り組むようになる。また、習熟度別等の少人数指導を生徒の実態や教材の内容によって計画的に行うことによって、生徒一人一人の習熟の程度に応じたきめ細かな指導の一層の充実が図られる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力の実態把握と分析（全国標準学力テスト、新潟県中学校教育研究会学習指導改善調査、授業に関するアンケート等の実施と分析） ○ 学力実態に基づく指導内容の重点化と指導方法、指導体制の工夫 ○ 生徒に見通しをもたせるための目標と学習内容の提示の工夫 ○ 生徒の自己評価能力を高め、授業の評価を充実させるための振り返りカードの活用 ○ 指導と評価の一体化を図り、いわゆる目標に準拠した評価に対応した、定期テストの作成、実施 |
|--------|---|

- 基礎・基本の定着を見取る単元確認テストの実施とパーフェクトマスターの作成、改善
- 数学科と英語科を中心とした少人数指導の実施
- 客観的データによる成果の確認

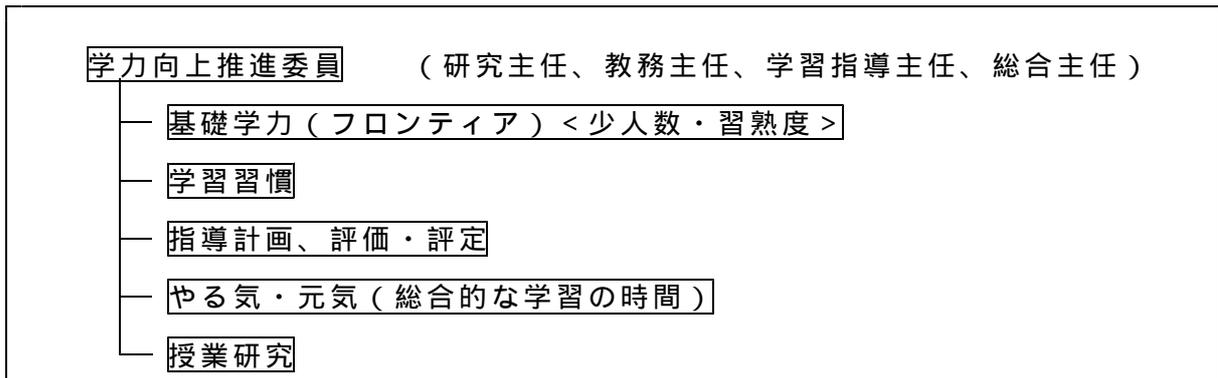
平成16年度

テーマ
 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導方法の工夫、改善
 仮説
 「パーフェクトマスター」や振り返りカードを活用しながら指導と評価の一体化を図ったり、習熟度別、課題別等の少人数指導を生徒の学習状況や選択能力、教材の内容に応じながら計画的に行ったりすることによって、生徒一人一人の個性、能力、習熟の程度に応じたきめ細かな指導の一層の充実が図られる。

研究内容・方法

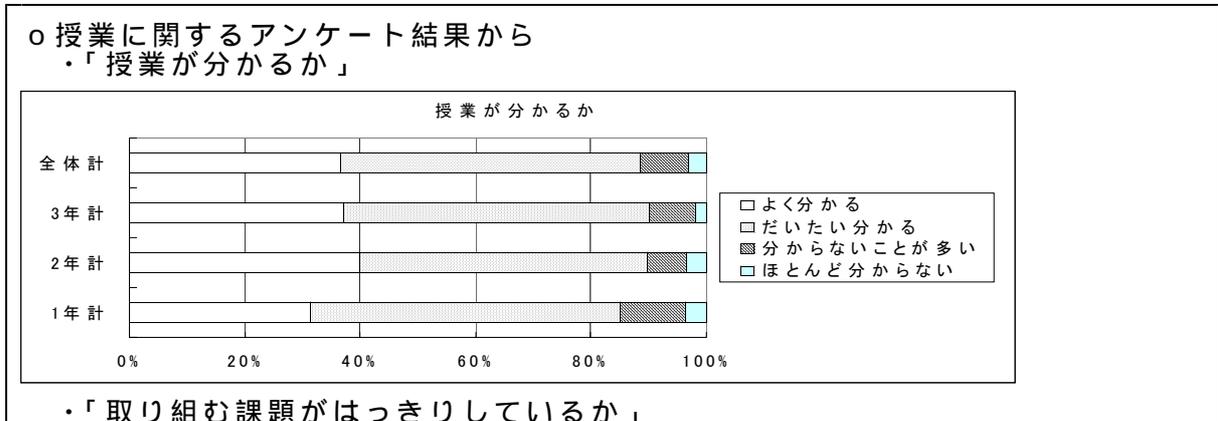
- 客観的データを基にした生徒の学力実態の変容とその原因の分析（全国標準学力テスト、新潟県統一テスト、授業に関するアンケート等の実施と分析）
- 学力実態に基づく指導内容の重点化と指導方法、指導体制の工夫
- 生徒に見通しをもたせるための目標と学習内容の提示の工夫
- 生徒の自己評価能力を高め、授業の評価を充実させるための振り返りカードの改善
- 指導と評価の一体化を図った定期テスト等の改良
- 基礎・基本の定着を見取る単元確認テストの実施とパーフェクトマスターの活用と改善
- 習熟度別、課題別等の少人数指導の計画的な位置付けと拡充
- 客観的データによる成果の確認、手立てと成果の関係の検証

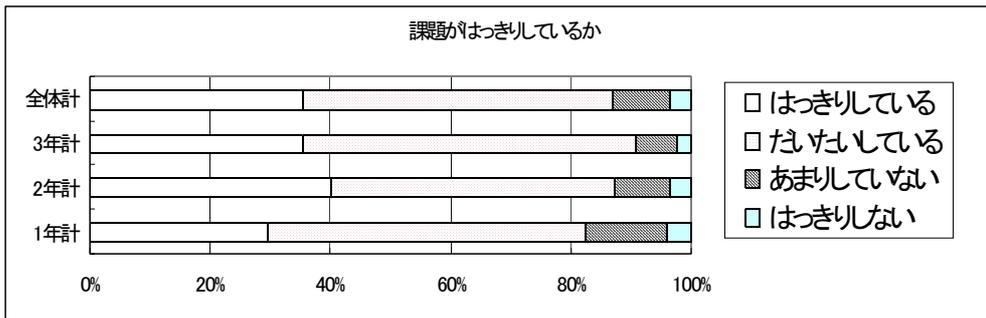
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

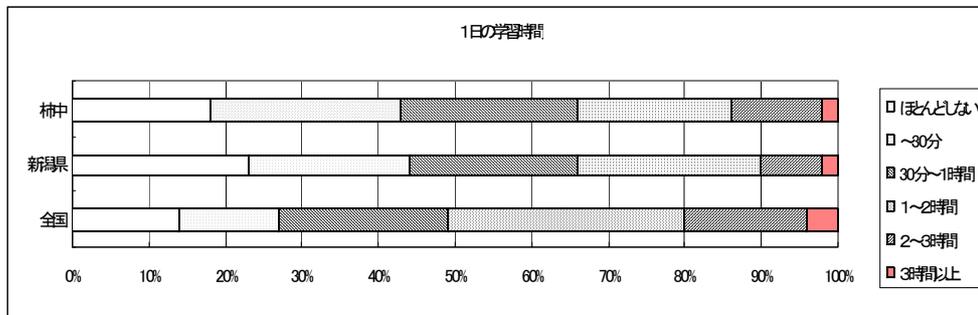




9割を近い生徒が、「よく分かる」「だいたい分かる」と回答している。昨年と比較すると、2ポイントほど増えている。また、授業の取り組むべき課題が「はっきりしている」「だいたいしている」という生徒の数は、8割を超えている。9月に実施したアンケートの結果よりも上昇している。

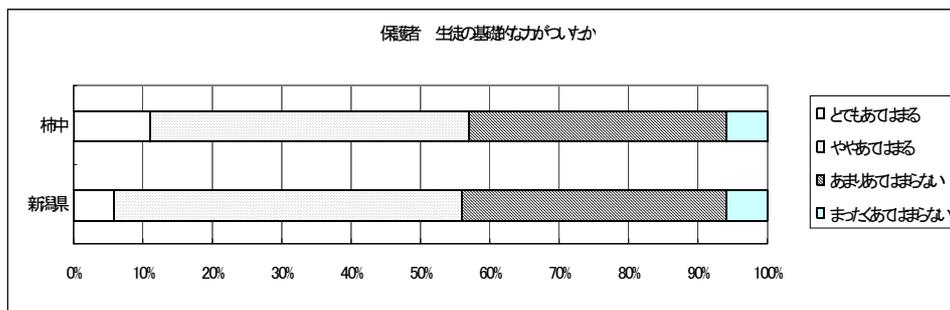
少人数指導に対する生徒の声も肯定的なものがほとんどである。少人数指導を含め、指導形態を工夫したり、授業の開始時に学習内容を確認し、授業終了時にカード等を活用した振り返りを積み重ねてきたりした結果の成果と考える。

・「学習時間」



平均学習時間が、1学期1.2時間だったものが、2月実施時に1.4時間と若干ながら増加している。これは、授業の開始時に行う前時までの定着を見る小テストと、授業に関連する内容を中心にした課題の出し方の工夫が、多少なりとも効果を現していると考えられる。

○保護者の意識調査



保護者に対して行ったアンケートの「読み・書き・計算などの基礎的な力が身に付いているか」「やる気をもって勉強に取り組んでいるか」という項目は、全県の調査の結果を若干上回っている。

また、「調べたり、まとめたりする力が付いてきている」などの項目では、8割の保護者がよい評価をしており、全県を上回った結果になっている。

○数学科、英語科における習熟度別少人数、並びにチームティーチングの実践の積み重ねにより、生徒の実態に応じて学習形態を工夫することが可能になってきた。また、学習形態を盛り込んだ指導計画が作成できた。

○生徒の実態把握に基づく重点単元、重点題材が明確になった指導計画が作成された。また、単元や題材ごとに学習の目標と学習内容の確認を積み重ねてきた結果、評価基準が明確になり、指導計画の見直しが図られた。

○N R T

3月に実施する予定である。

2. 今後の課題

○授業アンケートの結果、「分からないことが多い」「ほとんど分からない」と回答している生徒が1割弱いる。個々の生徒に対応するために、少人数指導を導入するなどの授業改善を行ってきたが、まだ十分ではないことが分かる。客観的データと、1時間、1時間の授業の中での見取りを大切にして、生徒の実態に応じた学習形態、指導形態を更に考察したり、指導方法を工夫したりしながら授業改善を進めていく必要がある。

○家庭学習が十分に定着していない生徒が、まだ2割ほどいる。県の調査結果よりも若干上回っているとはいえ、全国の調査結果に比べると、家庭学習への取組がまだまだ十分とはいえないことが分かる。学校における学習と家庭における学習が相まってこそ学力向上につながることから、毎日の授業と密接にかかわった課題の提示の仕方を工夫し、課題を生かした授業の進め方を考察していく必要がある。

○保護者に対して行ったアンケートの「読み・書き・計算などの基礎的な力が身に付いているか」「やる気をもって勉強に取り組んでいるか」という項目は、全県を若干上回ってはいるものの、4～5割の保護者が、「基礎的な学力が十分に身に付いていない」「やる気が感じられない」と回答している。今後も授業等の工夫改善に継続的に取り組むと同時に、オープンスクールやたより等を積極的に活用し、授業の様子や生徒の実態をもっと保護者に知ってもらい、保護者と協力しながら学力向上に取り組む必要がある。

学力把握のための学校としての取組

定期的な学力実態調査の実施

- NRTの実施（4月、3月）
- 新潟県中学校教育研究会学習指導改善調査の実施（5月）
- 定期的なアンケートの実施（生徒・保護者）
- 授業への取組、要望、家庭での学習状況に関するアンケート（7月、12月、2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 中間発表会
 - ・期日 平成15年11月7日（金）
 - ・場所 柿崎町立柿崎中学校
 - ・対象 地域の小学校、中学校、保護者
 - ・目的 今年度の研究の取組を地域の小中学校等に紹介し、普及させるため。
- 研究紀要有
- ホームページアドレス <http://www.kakizaki-j.jorne.ed.jp/>
- フロンティアティーチャーとして上越市立城西中学校の職員研修会に参加。5か町村学習指導センターと連携し、授業改善に向けた研修を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無